



アクティブシニアリーダー/弁護士

丸山 和也

まるやま かずや

Twitter : <https://twitter.com/maruyamakun>
フォロワー3.2万人

『最後の弁護士侍』

- 生年月日 : 1946年1月23日 (年齢 75歳)
- 身長 : 166cm
- 趣味 : 座禅・寒中水泳・滝行
映画評論・ランニング

略歴

弁護士法人丸山総合法律事務所代表。
豊かな人生経験に基づき、複雑な人間関係や利権の絡む事件を上手に解決してきた。
国際感覚も豊富でリーガルセンスに高い評価を得ている。

『行列のできる法律相談所』への出演をきっかけに、タレント活動をスタート。
家庭内のいざこざから国際問題まで、歯に衣着せぬ痛快感な発言が支持され、
コメンテーターとしての番組出演や、各種講演活動が殺到。
2005年『24時間テレビ28』のチャリティマラソンランナーも務め、
当時の最高齢ランナーとして100 kmを完走。

弁護士としての知見と一般視聴者に向き合ってきた感覚を活かし、
各種政策立案や司法改革等に参議院議員として2期、12年の間携わる。

現在は、**生涯現役のアクティブシニア**として、
『100歳でマラソン完走』を目標に掲げている。



一丸山和也よりメッセージ

私、丸山和也は、『最後の弁護士侍』として、人生を全うしようと思います。

現在、75歳、人生の第4コーナーに入りましたが、人間、このラストスパートをどう生きるかが重要と私は考えています。

100歳まで弁護士として仕事を全うする。
依頼者を弁護するということは戦うということ。

一方、年をとると中々柔軟性にかけてきますが、
弁護士は依頼者の心の声を素直にしっかりと聞くこと。
これは若い時にはなかなか出来ません。
これが出来る年齢になったことで、ラストスパートへの気力が湧いてきます。

ちなみに、私が特別元気に生きているように聞こえるかもしれませんが、
誰でもできることです。

では何をすればいいのか？

それは「生きる」ということは何かを考えるということです。

松本清張（作家）はこう答えています。
「生きるとは『執念』です。執念とは挑戦です」と。

つまり、生きるとは挑戦そのものなんですね。
誰にでも出来る、人それぞれの挑戦を見つけていこうではないですか。

そういえば、私が59歳で走った100km・24時間マラソンの
キャッチフレーズも「生きる」でした。

是非、皆さんと一緒に人生を走り続けたいと思っています。